第３回　県立高校教育振興検討会議　議事概要

１　日　時　　令和５年 11 月６日（月）　13:00～15:00

２　場　所　　富山県民会館 401 号室

３　委員出席者　荒井　公浩　池永　美子　上田　良美　亀谷　卓朗
近藤　智久　品川　祐一郎　高瀬　幸忠　田辺　惠子
鳥海　清司　中村　総一郎　藤重　佳代子　松山　朋朗
水口　勝史　水口　芳美

４　会議の要旨

司会が開会を宣した。

議事事項

○　県立高校の再編に関する学校規模や基準などの基本的な方針について

○　県立高校の学科やコースの見直しについて

○　様々なタイプの学校・学科等について

事務局から資料に基づき、本会議における検討事項の確認と検討に当たって参考とする事柄などについて説明した。

（会長）

事務局からは、資料２の２ページにあるように県立高校配置の方向性の素案を示していただきました。また、４、５ページにあるように再編統合が必要になった場合の基準についても、例を示していただきました。この２点につきまして、ぜひ皆様全員のご意見を伺いたいと存じます。

本日は、前回同様この場で結論を出すということではなく、幅広い観点から様々なご意見を皆様方からお伺いすることにしており、第４回の検討会議で、委員の皆様のご意見を踏まえた素案を示し、さらに議論を深めて参りたいと思っています。

（委員）

結論から言うと、今後も現在の基準を適用していくことがよいのではないかと考えています。生徒が学びたい、学んでよかったと思えるようにするためには、一定水準の教育の質が必要で、それを提供するためにはどういったことが必要かということを考えなければいけないと思います。前回の会議でも、皆さんから高校教育の質を下げるわけにはいかないなどの意見が出ており、大事なところではないかと思います。

現在、国の法律で教員数等が決められているので、生徒数の減少が続く中で、国からの教員の加配数や教員増員のための県からの予算配分が変われば、学級数が減るということを考えることもできると思いますが、そのままであると考えるならば、生徒に提供する教育の質と量を共に低下させないためには、現在の基準がよいのではないかと思います。

参考資料にある学校関係者や全国調査の結果において、１学年あたり４から８学級が望ましいとされていることや、前回の会議で、委員の皆さんから５から６学級、４から５学級、４学級くらいは必要といった意見が多く出ていたので、それを考えると現在の基準が適用されるのがよいと思います。

本県では、前回の基準が「再編統合時の学校規模が１学年４学級未満又は 160 人未満の規模は再編統合の検討対象とし、その際、１学年３学級未満又は 120 人未満など極めて規模の小さい学校から検討する」とされています。また、「なお、全県的な視野から特色ある教育活動の展開が期待できるなど特別な事情（職業科単独校、地理的な制約）がある場合は、対象としない」となっているので、現行の制度の中では質を担保する基準を満たしており、例外規定も設けられているので、弾力的に運用できるような基準となっていると考えます。

再編にあたっては、学級数や学校数、教員数などの学校規模に関する対応策として、先ほど紹介されたようなキャンパス校の設置も良策ではないかと思われますが、これを設置した場合には、課題として教員や生徒の移動手段を考えなければいけないと思います。また、移動時間ということも当然考えなければならず、この課題はなかなか難しいのではないかと思います。現在、富山大学の教育学部は、金沢大学と共同教員養成課程ということでキャンパス校のような状態になっていますが、教員の移動に大変な苦労があるという実態があるので、こうしたことが課題となるのではないかと思います。

どうしても小規模の学校を存続させるという考え方をしなければならないのであれば、例えば中等教育学校のような制度を取り入れるなり、現在は公立や県立学校の設置者は県だけとなっていますが、新たな設置者の形態を考える必要があると考えられます。

以上の理由から、冒頭に申し上げたように、今後も現在の基準を適用するのがよいと考えます。

（委員）

私は、「２．基準を引き下げる」という意見で、１学年３学級以下または 120 人以下といった学校ができてもいいのではないかと思っています。小規模校、中規模校ともに、少人数は少人数の良さがあれば、規模が大きい良さもあり、それぞれ特徴があり、数の規模ですべてを判断するのは違うのではと思っています。

今後、富山県として規模を４から８学級に収まるようにするのか、２から 10 学級のように幅広くするのかといった方向性を決めるべきなのではないかと思っています。

また、キャンパス校については、私も離れた学校で何とか一緒に授業ができないものかと考えてみているのですが、学校間の距離があるとなかなか現実にはできていない、教員の交流も思ったほど進んでいないというのが実態としてあります。

先ほど紹介された京都府立宮津天橋高校は、宮津学舎と加悦谷学舎がどれくらい離れ、成り立っているのか気になるところです。

（委員）

教育の水準を考えると４学級は最低でも必要だと思っています。中学校でも、３学級以下になると、教員数の関係から学校運営は厳しいものがあります。やはり最低でも４学級

はないと子どもたちの求めるような教育が難しいのではないかと懸念しています。
　先ほど示していただいた例であれば、「３．基準を引き上げる」がよいと思います。範囲が広い中で検討するのは選定が困難になるというデメリットもありますが、広く４学級のところで再編なり統合なりを考えていった方がいいのではと思っています。
　その中でも、地域の特色ある学校について「なお書き」もあるので、すべて小さい学校を統合するということではなく、それぞれの地域の実情に応じた再編も必要となってくるのではないかと思っています。
　小中学校も小規模化してきており、小学校６年間を１学級で、中学校３年間もそのままで９年間学級が変わらないという状況も見られます。クラス替えは子どもたちの学びにおいても必要です。また、多様な考え方に触れる機会や高校における広い学び、広い人間関係の構築は必要だと思っているので、そのような再編が可能であればいいと思っています。

（委員）
　再編に関する基準については、本当に悩ましいと思っています。示された例の１、２、３すべてにおいて「特別な事情がある場合は、対象としない」という「なお書き」があり、そうするとどうなっていくのだろうとなります。そうなると「４．学校規模の基準を設定しない」になるのかと思うのですが、これは極めて困難でよろしくないので、とても悩ましいです。「なお書き」があるのも大変難しい条件になっているのではと思っています。
　ただ、特に「５．志願状況や欠員状況」については違うのではないかと思います。現在も定員割れの学校がありますが、もし定員割れの学校や学科がなくなるといった場合には、困ることが起きるのではないかと思います。前回も、他県の事例の中で、志願状況や欠員状況でズバッと切っているところもありましたが、冷たい切り方をしてしまうのはよくないのではないかと思います。

（委員）
　学校規模については、学級数が多い学校から少ない学校までバランスよくあることが望ましいと考えています。学校規模の大きい、小さいによるメリット、デメリットはそれぞれあるとは思いますが、一概に規模を統一するのではなく、中学生が高校を選択する際に、幅広く選択できる形を残しておくことが大事だろうと思っています。
　それは規模だけではなく、学科やコース、地域性も同様で、困難なことだとは思いますが、県全体のバランスをしっかり見極め、学校を配置することが必要だと考えています。
　基準については、「１．令和２年度の基準」を大前提として考え、必要があれば修正を加えるような捉え方で進めていけばよいのではと考えています。基準を引き上げるにしても、引き下げるにしても、その根拠となるメリットよりもデメリットの方が強いのではと私は感じています。いずれにしても、示された例の１、２、３の基準それぞれに記載されていますが、これまで通り「規模の小さい学校から検討する」ということは必要なのだろうと考えています。
　また、「５．志願状況や欠員状況」については、先ほどの委員同様、私も大変慎重に考えなければいけないと感じています。志願状況や欠員状況を基準とすると、例えば、学校間における生徒確保の競争が生じる可能性や、延いては学校内外における様々なひずみが発

生する危険性があるのではと感じており、基準としてどうなのかと思っています。

（委員）
県立高校配置の方向性（素案）を示していただきましたが、方向性とすれば私もこういうことだと思います。昨年度まで開催されていた「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会」の報告書を踏襲した流れがここに反映されています。その時も、様々な学科構成や学校規模などをバランスよく見ていくべきという議論がなされました。
再編に関する基準ですが、平成28年頃から令和２年度にかけて様々な議論、検討がされ、令和２年度の基準が富山県として設定されたと認識しています。なぜ「４学級未満又は160人未満」なのかということになりますが、国の標準法を踏まえると、４学級を超える規模であれば、学校教育を進めていく教員がある程度確保されることになります。教員配置は、学校にとって非常に大きなことだと思っています。高校へ進学する子どもたちの話を聞いていると、高校での部活動においては、母校愛や学校の校章、いわばシンボルや伝統といったものを背負い各種大会に出場し、仲間たちとともに過ごしたいという強い気持ちをもっているようです。
そういったことを考えての令和２年度の基準だったと私は思っているので、様々な例を示していただいていますが、基本とすべきはこの令和２年度の基準なのかなと思っています。
ただ、その中にあっても極めて小さな学校については、先ほどキャンパス校の例も紹介していただきましたが、公共交通でうまく繋ぐことができるような立地やバス路線などいろいろなものを駆使し、私たち大人の方で子どもたちを支援するようなシステムがあれば、オンライン教育システムが整いつつある中なので、可能性はあるかもしれないと思います。地域性や特色ある学科編成ということもベースになるのではと感じています。

（委員）
まず、再編に関する基準ですが、「３．基準を引き上げる」必要があると考えています。生徒にとって質の高い教育の一つの要因になるのが教員数の確保です。そして、学校規模がある程度あることが、部活動など様々なことに対して効果があると思っています。
また、ある程度の平等性を確保しようと思うと、規模を少し大きめにとっておくのが近道であろうと思っています。
それから、資料２の１ページにもあるように生徒数が大きく減少するので、急にある学校に絞って再編の話をするよりも、例えば現段階で４学級以下の学校についてはすべて再編統合の対象だということを公表するべきだと考えています。それにより、県内外から教育問題に関するいろいろなご意見が入ってくると思います。
再編統合の対象校が多くなり選定が困難になるということは重々承知していますが、このような時だからこそ、選定が困難であろうとも県民に広く再編対象校を公表することの方が、効果が大きいと考えています。
また、かなり遠方の高校へ進学しなければならない環境にある子どもについては、距離というよりも時間距離が大切ではないかと思います。金銭的な通学の負担が生じる場合もあり得るとは思いますが、同じ５km、10kmを通うにしても、公共交通機関によって30分、

40 分で通える場合もあれば、全くない場合は、１時間、２時間ということもあると思いますので、時間距離で考えていくべきだと思います。大きな高校ばかりではなく専門特化したものについては、県として非常に重要な分野であれば、２学級であろうと１学級であろうと存続させるべきであり、それには遠方からの流入も当然必要だと思うので、時間距離という概念が必要だと思います。

（委員）

母校が統合された経験から申し上げると、３学級というのはとても少ないと感じています。高校生にとって、もちろん学業は大切ですが、学校で過ごす時間、同級生や先輩、後輩と過ごす時間はとても大切だと思っており、３学級ではとても残念な思いをすると私は見ています。やはり４学級以上が必要なのではないかと考えています。

そして、５つの例の中で対象を選ぶことについては、「規模の小さい学校から」というのが明確で一番分かりやすく、誰もが異を唱えない点だろうと考えました。

「歴史がある」「地域性がある」「うちの地域には必要だ」など様々な感情があり、いろいろなことを仰いますが、そういうことを言っていると、まとまる話もまとまらなくなってしまうので、数ということで明確に示すことはとても大切だと感じています。

（委員）

資料２の１ページに示されているように、現在、平均学級数が 4.6 であるのが、10 年後には 3.7 になるということであれば、小規模校が誕生するため、再編が必要という皆さんの意見には同意します。

その中で、示された５つの例から再編の基準を選択するとなると、「４．学校規模の基準を設定しない」のように、間口を広くし、地域における普通科の必要性や工業科の必要性、農業科の必要性など、目的を基準にすることが望ましいとは思いますが、これではなかなか議論が進まないことを考えると、個人的には「３．基準を引き上げる」で、対象校を広くし、その中から目的に合わせて選んでいくのがよいと考えました。

委員の方々からは、「志願状況については基準としない方がよい」ということでしたが、３年連続、普通科で 0.8 倍、0.7 倍が続く、あるいは農業科で 0.7 倍、0.6 倍が続くということがあれば、サービスを受ける生徒の希望の手が挙がらないということになるため、シビアに見れば生徒からのニーズが低いということになるのではと思います。そのため、「５．志願状況や欠員状況」を一部加味する考え方もあるのではと考えました。仮にある学校の工業科で低倍率が続くようであれば、工業科でも情報処理に変えていくといったことや、商業科の一部を、例えば介護に変えていくといったように生徒のニーズを加味してもいいのではという気がします。

（委員）

先ほどの委員からもありましたが、令和２年度の基準は、あり方検討委員会も含めてそれ相応の議論がなされた上で作成されたことや、基準を引き下げるとバランスを見ながら検討するのが難しくなること、逆に基準を引き上げると、広がりすぎて選定が難しくなることから、私としては、これまでの基準を踏襲するのがよいと感じます。

また、キャンパス校については、制度上、物理的な移動が非常に難しいのではないかと思ったので、物理的な移動のしやすい場所での検討がよいのではないかと感じました。

（委員）
再編に関する基準ですが、私は「１．令和２年度の基準」または「３．基準を引き上げる」形だと思っています。最近、総合的な探究の時間が設けられているように、子どもたちが自ら課題を見つけて探究することが求められています。子どもたちの多様な学びに応えていくためには、それなりの教員数が必要、つまり、学校規模が必要という思いがあります。
また、基準については、学校の特色という点で、距離や通学時間等の地域性が意見として出ていますが、地域とどのぐらい連携しているのかを考慮するといった＋αの基準もあるのではと思っています。

（委員）
これまでも資料にある生徒数減少のグラフを見ていますが、大変衝撃的な減少カーブだと思っています。そこで、議論の対象を現在ではなく 10 年後、15 年後とする。10 年後が令和 14 年とすれば、現在の生徒数の約８割になります。15 年後だと７割です。私たちの議論は10年後か15年後を想定して検討していく必要があるのではないかと考えています。
再編に関する基準について、私は基準は引き上げるべきだと思いますし、志願状況や欠員状況も十分考慮するという柔軟性に富んだ考え方をもつ必要があると思います。そうしなければ、生徒数の減少が、今の感覚では絶対に解決できないぐらいの大きな問題に拡大していくと思います。
特に基準を引き上げることについては、現時点ではなく 10 年から 15 年後を考えるのであれば、現在の４学級ではなく５学級も含めるべきではないかと思います。学級数を考えると 15 年後には５学級ですら４学級ぐらいに下がっているわけです。思い切って現在の５学級も対象にし、再編していくべきではないかと思います。
考え方としては、皆さんからもあったように、なるべく規模を維持させることが望ましいと思います。その上で、特色ある運営に柔軟性をもたせるということが鍵なのではないのかと思います。柔軟性ということについては、先ほどから出ているキャンパス校という考え方も非常に優れていると思いますし、総合学科ということもあり得ると思っています。また、普通科のコース選択も少数の子どもが選択できる授業が広がっていくので、これもよいのではと思います。
また、学校ごとに特徴を出し特色ある運営を目指すことが今後大事になってくるのではないかと思います。スクール・ポリシーが非常に明確になり、地域との連携が深まり、うまくいけば大学とも連携できるようになるといったように、学校のあるべき姿が想像できると少数の学校になっても魅力が出てくるのではないかと思います。
皆さんの評判があまりよくなかった志願状況や欠員状況については、確かにこれは慎重に検討しなければいけないかもしれませんが、子どもの数が大きく減っていくことを考えると、これからは子どもが選択する幅が想像以上に広く多様化し、志願状況の変動に今後ますます拍車がかかってくると予想されます。そのため、それに耐え得るだけの制度を考

えた方がいいのではないかと思いました。
　もう一つ、資料の中に「県立高校の目指す姿」や「県立高校配置の方向性」とありましたが、大変優れた考えというか、よい方向性を考えられていると思いました。６つの方向性と学科構成、学校規模のベストミックスを狙っていこうということだと思うので、その考え方はよいと思っています。しかし、これはあくまでも方向性であるので、富山県の高校教育が何を目指すのかというビジョンを定める必要があるのではないかと思っています。前回もビジョンや方針について述べましたが、例えば、「郷土の発展に幅広い分野で貢献できる人材を育成する」あるいは「国際社会の進展に開けた教育を目指す」のような画一ではないものが必要だと思います。子どもが減少する中で、富山県として目指すべき教育の方針をこの機会に定めていかなければ、これからいろいろな選択を迫られてくると思いますが、枝葉末節の議論ばかりしていては何も解決できないため、大所高所の議論をするべきではないかと考えています。これは教育行政の話かもしれませんが、このような話の中ではビジョンを明確に定め、その中で選択、検討を進めていく必要があるのではないかと考えました。

（会長）
　委員が仰ったビジョンについては、資料２の２ページや「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」に示されていると思いますが、郷土発展や国際社会への対応といった観点から、それをもう少し更新すべきということでよろしいですか。

（委員）
ここに書かれている内容は、少し違うと思っています。

（教育長）
　ただいまのご発言のご趣旨に合うかは分かりませんが、「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」の７ページに「魅力と活力ある県立高校づくりの目指す姿」があり、６つの方向性が示されているのですが、その上に「３つの目指す姿」があり、「生徒の可能性を引き出し、自分らしく未来を切り拓いていくための力」「社会の持続的な発展を担うための主体的に課題を発見し解決する力や他者と協働して解決策を生み出す力」「自己と他者を尊重し、多様な価値観を認め合いながら、よりよい社会を築こうとする態度」を育成していくことを示しています。少し抽象的な表現ですが、これからの高校教育の目指すものではないかということでお示ししました。先ほどの「郷土への貢献」などとは別の切り口になると思うのですが、この辺りをどのように考えたらよろしいでしょうか。

（委員）
　最初にこの３つをまとめて『魅力ある高校教育を通した「ウェルビーイング」の向上　～学びたい、学んでよかったと思える高校づくり～』となるわけですね。これはビジョンとして定めてよろしいのでしょうか。

（教育長）
　前回の検討委員会では、こういう方向でやっていきたいということで取りまとめをし、現在に引き継がれているという状況です。ただ、これで決定ということではなく、それも含めて議論しています。

（委員）
　これは大切な部分です。これを基に大所高所のところで決められていくので、これをビジョンとして定めるのであれば、それで進んでいくことになりますね。

（会長）
　委員が仰った点は、高校再編の方向づけになるようなビジョンにアップデートする必要があるのではというご提案だと受け止めております。よろしくお願いします。

（委員）
　再編に関する基準に関しては、私は「３．基準を引き上げる」のが、対象校が限定的にならずに幅広くから決まるのでいいのではないかと思いました。また、「５．志願状況や欠員状況」について最初はどうかと思っていたのですが、先ほどの委員からもあったように、商業科や工業科などの募集定員に達していない学科を再編するのもよいと思いました。
　キャンパス校ですが、以前、南砺福野高校と南砺福光高校が南砺市のバスか何かを利用して、お互いに行き来していたことがあったと思うので、そうしたことができれば素晴らしいことだと思っています。

（会長）
　委員全員の皆さんからご発言をいただきました。大変ありがとうございました。
　一人の委員の方からは、規模の基準の引き下げを含め、多様な形態を、小規模校の存続も含めて検討すべきというご意見がありました。一方で、残りの委員の皆さんからは、生徒数の減少や学校の運営、教育の質のことを考えて、現状維持ないしは規模の拡大が必要ではないかというご意見をいただきました。また、「なお書き」があるという話もありましたが、特色または多様性ある教育や地域特性に応じた運営、移動距離、時間距離といったことを含めたご意見がありました。
　皆さんからのご意見を踏まえ、次回に向けて再編に関する学校規模や基準について素案を作成し、皆さんで議論させていただければと思いますので、よろしくお願いします。
　事務局の方から補足をお願いします。

（事務局）
　先ほどの委員からご質問があったキャンパス校の京都府立宮津天橋高校についてです。距離については、約 15km とのことです。ただし、公共交通という点では、なかなか便利とは言えない地域に２校が存在しています。ちなみに現在、遠隔教育等を行っているようですが、部活動については学舎間を移動するバスを週２日、３便ずつ出していると聞いています。高速道路を使って 20 分ほどかかるとのことです。移動時間や両学舎での時間割のや

りくりなど、いろいろな面で課題もあるという話も聞いているところです。

（委員）
私は「２．基準を引き下げる」を申し上げましたが、定員の母数をどう決めるかが大事だと思っています。今年も県立、私立高校ともに総数で言えば定員割れをしており、ともに96％という定員充足率です。これは実数で言うと300人以上穴が空いているという状況です。300人以上ということは、４学級の学校２つ分の穴が空いていることになります。
これで基準を「１．令和２年度の基準」や「３．基準を引き上げる」にすると、どういったところを再編統合の対象にするのかということになります。そのため、大事なのは母数をどうするかということになると思うのです。そこをどうするか話をしないうちには、規模感だけで議論を進めるのは、難しいと思います。

（会長）
事務局の方でご検討をお願いします。
もう１点、先ほどの委員から富山県の学校規模をどうするのか方向性を決める必要があるとのご指摘がありましたが、近隣県の状況なども踏まえながら、次回の素案の提示に向かいたいと思いますので、よろしくお願いします。母数の部分についても、地域性のようなことが関係するかとも思いますので、よろしくお願いします。

（会長）
それでは続いて、二つ目の議題に移ります。
主に関係高校長の意見を参考に農業科と工業科について、また、普通科の見直しについてご意見をいただきたいと思っていますが、各学科の配置や定員設定についてのご意見もいただければと思います。

（委員）
希望としてお伝えしたいと思っていることは、工業系において、ぜひ女性がどんどん入ってもらえるようになることが好ましいと思っています。そのためには、従来の教育からデザイナーや工業デザイン、デザイナーといってもかなり幅広い意味においてですが、そういうデザイナーを育成しようといった考え方があるのが望ましいと思います。これは地場産業もあるので、デザインすることにより付加価値をどんどん上げていくことができます。それを富山県の中でできるようにしていくことは、人材育成の点においても非常に価値があるのではないかと思います。
また、農業系が非常に重要な問題となっています。今のままの状態だと、農業系は多分廃れていくのだろうと感じています。これは富山県というよりも、日本全体の問題であり、日本がこれから取り組まなければならない大きな課題の一つとして、食料自給率をどう高めるかということがあると思っています。日本の問題だけではないかもしれませんが、気候変動に対応できる食物にどう改良させていくかといった切実な問題が迫ってきているので、子どもたちもそうした関心が強まってきていると思います。富山県としても、重要な産業を伸ばしていくという点で、農業系にはぜひ力を入れ、先進的な技術を学べるように

する必要があるのではと考えました。
　もう一つ、学科の中身や名称をこの機会に変えていくことも大きなアクションに結びつくのではないかと思います。どのような名前に変えるかは、大学で学部名、学科名も含めて大きく変わってきているので、それらを参考にすると高校の学科名ももっと適切な名前にできるのではないかと考えています。
　大事なことは、どの学部、学科も男女共学で、アンコンシャスバイアスは、もう始まっているような気がしています。どの学科でも男女ともに勉強したいと思わせるような名前を検討していきたいと考えました。

（委員）
　職業系専門学科に関しては、特に社会に出る場合の進路選択が大変多様化していると実感しています。例えば、不登校傾向の生徒が増えてきています。全日制の高校に通って就職、進学するというような前提すら、既に崩れてきているのではないかと思っています。人生 100 年時代を生き抜いていくためのキャリア形成は、そもそも変わってきています。その中で、専門学科に入った場合、どのような将来を描くことができるのかを示すことが必要なのだろうと思います。
　中学校段階において、職業系専門学科設置校を目指す理由そのものが、難しくなってきているのではないかと思っています。何となく偏差値を基に県立高校に入る、あとは部活動を理由に専門学科に進学するという生徒が少なからず存在していると思っています。
　もともと職業系専門学科は、卒業して就職するためにつくられたと思っていますが、気になっているのは商業科と家庭科です。商業科と家庭科について資料３の 12 ページにある進路状況を見ると、就職が３割を切っています。商業科では３割、家庭科では２割ぐらいで８割が大学や専門学校に進学しているという状況があるので、高校における職業科の役割は少し変わってきているのではないかと思っています。
　だから、何らかの形でも変更すべきだと思います。役割が変わってきた場合には、例えば定員の一部を普通科に変更するなど、思い切ったことも必要なのではないかと思っています。先ほどの委員からもありましたが、職業系学科の名前が変わっていないことが少し気になっており、現代に合うような内容や名称があったらよいと思っています。

（委員）
　中学校３年生で、生徒も保護者も確固たる気持ちをもって職業科に行こうといった子どもたちが随分減ってきています。高校も３年間、普通科というか中学校の延長線上のような教育を受けて、その後、就職なり、専門学校なり、大学なり進路を決めたいという子どもや親が増えてきているのが現状だと思っています。資料３の 11 ページにあるように、ほとんどの子どもの進学希望は普通系学科なのです。このような現状の中で、送り出す側としても工業系や農業系にも魅力がたくさんあると伝えているのですが、なかなか決めきれないという状況だと思います。
　「女性も工業系に」という話があり、私もそのようなことが好きで興味のある子どもたちには、ぜひそういう道に進んで欲しいと思いますが、さすがに現在の学科のネーミングだとまず行きません。土木科と言われても、まず女子は行きません。男子も土木科で何を

するのか分かっていません。中学校も高校からいろいろ話を聞く中で、高校の専門性のことも言われますが、なかなかそこまで分からないというのが現状です。そのため、前にも話があったように、工業科を一括募集のようにするのがよいのではと思っています。ただ、そうなると検定を取れなくなるということがあるかもしれませんが、一括募集にした方が、子どもたちは工業系を選びやすいのではないかと思っています。

さらに、今の子どもたちは小学校からいろいろな端末を扱っているので、端末に対する抵抗は私たちよりも少なく、素晴らしい力をもっています。ですから、工業系や商業系などいろいろあるかと思いますが、さらにそういう技術を伸ばすような学科もあれば、小学校や中学校で身に付けてきた力をさらに伸ばせるのではないかと思っています。

どの中学校でもいろいろな部活動がなくなってきていますが、コンピュータ部はなくなりません。それだけコンピュータが楽しかったり、コンピュータでいろいろなことをしようと思ったりする子どもたちが大変多いのです。ある高校では、コンピュータ部を活性化させて、子どもたちを呼ぼうというような取組みもあります。例えばそういう点も、富山県としてどうしていくかを示していただければ、子どもたちの進路の選択肢も増えていくのではと思っています。

（委員）

小中学校におけるキャリア教育は重要だと思っています。今ほどもありましたが、先のことがなかなか分からないということもあり、「それなら普通科で」というようなことがあるのではないかという心配があります。

また、工業科と言っても細かくいろいろな科があり、「この先には何が待っているのだろう」とよく分からないところもあるため、一括募集となれば、そして「工業」という言葉ではなく、「工業デザイン」や「デザイン」という言葉になっただけでも、女子も「行ってみようかな」といった気持ちになるのではないかと思っています。

時代に合った学科があり、例えば、農業一つにしてもすごく幅広くなってきていると思うので、農業やアグリカルチャーという大枠で入ることができ、「私はバイオで何かをやりたい」「私は将来生まれてくる子どものために無農薬で頑張りたい」「私はドローンを駆使して農業をやってみたい」などの希望に応えられるとよいのではと思います。指導する先生方は、学ばせる内容を時代に応じて変えていかなければならないので、とても大変かと思いますが、間口を広くする募集として、より魅力的になればと思っています。

小中学校もキャリア教育を頑張っていますが、自分の未来に向けてどこの高校に行けばよいか考える際に、「そのような高校はない」ではなく、「あの高校に行きたい」という状況があることが理想だと思います。

（委員）

質問のようになるかもしれませんが、資料３の 12 ページに、農業科や水産科をはじめとする職業系専門学科の進路状況が出ています。

商業科、家庭科、福祉科については、関連就職と進学を合わせた割合が５割ほど、工業科については７割以上ということで、十分に学業として活かされていると思います。しかし、農業科や水産科は異なっています。例えば農業科は、関連就職と進学を合わせた割合

が 19.5%です。農作業に勤しんでいる私としては、農業の自給率向上を含め、大きな課題であると思っています。また、地政学的にも何か諸問題が勃発すると食料問題は非常に大きくなります。農業科の関連就職と進学の割合は平成 26 年３月の 23.1%（37 人）から令和４年３月の 19.5%（26 人）と非常に下がってきており、水産科に至っては、平成 26 年３月の 40.4%（23 人）が、令和４年３月には 13.2%（８人）になっています。

この辺りについて教育委員会として分析されているものなのか、非常に将来が心配で、特に農業は心配しています。質問のようになりましたが、お尋ねしたいと思いました。

（事務局）

個人的な思いも含まれますが、まず、高校生の子どもたちの希望が全般的に進学へシフトしてきている現状があります。農業科や工業科にかかわらず商業科、家庭科においても、親御さんを含め、すぐに就職することを選択するより、進学することを考える子どもたちが多くなっている感覚があります。しかし、分析となると難しいところです。

一方で、資料３の３ページにもあるように、農業科において、例えば、農業科から卒業して一旦は民間なり進学なりをした後、地元に戻ってきて就農し、起業するという生徒もいるとのことです。現状として、進学に傾いている子どもたちが多いのは事実ですが、学校の方では将来的にこういった子どもを増やすことも含め、就農に繋がればよいと思っているのではと考えています。

（委員）

農業科高校に進学した生徒のうち、関連進学する人数も非常に少ないわけです。農業科と水産科については、特に水産科はかなり危機的だと思いますが、カリキュラムがこのままでいいのかも含めてしっかりと検討していただきたいです。余りにも割合が低すぎるので、ここへの投資に対してあまり回収がされてないことになります。しっかりと分析をしていただきたいと思います。

（委員）

職業科を卒業した生徒からよく聞くことと普通科について話したいと思います。

職業系の高校を卒業する時に、就職先が決まった場合、後で「やめた」「嫌だ」と言うわけにいかないので、非常に厳しい契約のような状態で卒業しなければならないといったことがあります。わずか 18 歳で、これからの将来を預ける会社としてどこがふさわしいのか選択しきれない学生がいるのは当然だと思います。だからこそ、もう１年、２年、どこかで学ぶことができればと思う方が増えているのではないかと思います。職業系専門学科の就職率については、進路指導といったことに改善の余地があるのではと思っています。

先ほどから情報系の話があります。私たちの年代とは違い、生徒たちがスマホを持つことは、文房具を持つことと同じです。パソコンも同じように使えます。ということは、情報系のことを網羅する基礎学習ができていないと、卒業後、与えられた端末やいろいろな機材、スマホやタブレットなど多様なものに対応できる人材が育たないと思っています。私と関わりのある普通科高校の情報系の生徒は、非常に優秀ですので、こういった学校がもっと県内に増えればよいと考えています。また、先ほど「女性も工業系に」との話があ

りましたが、情報系であれば女性も入りやすいのではないかと思うので、もう少し工業科の中にも情報系の幅を広げていただければと思います。

（会長）
今ご指摘があったのは、18 歳の時点であまり重い話にしない方がいいのではないか。それに対する生徒からの懸念の声があるということと、スマホやＰＣは文房具のようなものなので、情報系の学科に限らず、名称や教育内容を含めて、女性の取り組みやすい形に見直しをすべきでないかということでした。

（委員）
今ほどの委員からご指摘がありましたが、資料３の 12 ページを見て、高校の職業系専門学科から就職になかなか結びつかないことに愕然としました。これは普通科も職業科もそうだと思いますが、中学校や高校の先生方の役目として、将来進路選択する時に「この学校のこの学科に行けば、社会とどう繋がることができるのか」という社会との接点のようなことを念入りに伝える必要があると感じました。例えば、農業科に進学した後、その先には「アグリだと…」「バイオだと…」といったビジョンが見えれば、子どもたちは目を輝かせるでしょうし、水産科で「自分で起業すれば…」ということが分かれば、また目を輝かせると思います。
普通科にも同じことが言えると思っています。普通科の生徒に「ここに行ったらその先はこのようなことになる」という社会との接点を思い描く手助けが大切だと思います。高校選択の進路指導の際に、進路選択と社会との接点について 10 年後の社会のニーズも含めて生徒に伝える、考えさせることが重要になってくるのではないでしょうか。

（会長）
資料３の 10 ページにあるように、石川県は普通科の比率が高くなっています。富山県と福井県は、総合学科とその他の位置付けによる違いはあるかとは思いますが、同じような職業科の比率になっています。普職比率については、富山県の現状と他県の状況などを見ながら、幅広い視点で見直す必要があると思いました。
また、皆さんも仰っているように、これからの時代に合った名称を含めたコースの見直し、特に情報関係の授業の科目の取り扱い等を含めて、学科・コースの見直しについての議論の中でご検討いただければと思います。

（会長）
次は「様々なタイプの学校・学科等について」に移ります。
まず全国募集についてご意見をお願いします。

（委員）
全国募集については、今回、南砺市からのご要望ということで、可能性の一つとして協力体制で進められればよいと思います。南砺平高校では郷土芸能部の活動や全国に打ち出してもよい特色がいろいろあります。ただし、全国募集をするにあたっては、この学校で

何ができるのか、どのような学びができるのかということを明確に打ち出しながら情報発信していかなければ、全国からの注目を集める募集にはなかなかならないと思います。制度としては、こういった取組みを富山県の一つの方向性としてもよいのではないでしょうか。

（委員）
南砺平高校は、残念ながらしばらく募集定員が埋まっていませんが、とても素晴らしい活動を行っています。郷土芸能部はいつも素晴らしい成績を収めていますし、スキー部はオリンピック選手を輩出しています。地域ならではのスポーツの発展にも大きな力を発揮しており、これは南砺平高校が山間部にある小さな学校だからできるという面もあります。自分たちには何ができるのかを考えて行動しているような高校であると思っています。
現在、全国募集の提案がされていますが、南砺平高校には幸い学生寮もあるので、前向きな検討をお願いしたいと思います。

（委員）
以前、南砺平高校の郷土芸能部の活動を拝見しました。本当にプロフェッショナルでとても素晴らしかったです。数年後、富山県で高等学校総合文化祭が行われた時にも、全国の皆さんが感銘を受けていたと思います。
とても素晴らしい活動ではあるのですが、富山県内でも南砺平高校へ進学することへの理解がなかなか得られない可能性があります。保護者にすれば、「そういうところへ行き、どうするのか」「生活はどうするのか」といろいろな心配をされると思います。それを全国展開することによって、一度にたくさんの方が応募されることはないと思いますが、最初は少なくても、情報発信することによって全国の方々に知っていただけると思うので、興味をもった生徒が見に来てくれるという可能性が高まるのはよいと思います。
宿泊施設については、空き家になっている一軒家を借り上げ、そこで生徒たちが生活をし、食事は近くの旅館や飲食店でとり、朝晩しっかり管理された状況で安全に過ごすことができている例もあります。そのような情報も提供する必要があると思います。とにかく郷土芸能部の活動の素晴らしさを知らせる方法がもっとあればよいと思います。

（委員）
南砺平高校については、南砺市の方で下宿が実際にできないのかと思っています。寄宿舎の場合は、週末や長期休業期間になかなか対応できないということでしたので、下宿という方法もあるのではと思います。これについては、市町村の方に伺えたらと思いました。

（会長）
続いて、国際バカロレア認定校について、伺いたいと思います。

（委員）
教育におけるグローバル化については、他国の文化や考えを受け入れることができる人材の育成が重要です。語学に力点を置くことについて異論はありませんが、他国の文化に

触れるということも同じぐらい重要な要素をもっています。
　学校教育の中で他国の文化に触れる機会をどのように増やせばよいか。例えば、語学の授業に世界史や地理の要素を加えたり、語学の先生が世界史や地理の先生と共同で授業を掛け持ったりするなど、教科横断的な授業に取り組んでいただき、富山をグローバル化教育の先進県と位置付けていただけるような特色あるグローバル化の取組みに挑戦してみてはいかがかと思いました。

（委員）
　各国に留学する際には、９月開始の学校や国が多いということがバカロレアの導入に繋がっていると思っています。英語力をさらに高めるという意味では、以前はとてもいい方法ではないかと考えていましたが、ここに係る人材への報酬額など莫大なものが必要になることや、昨今の国際情勢を考えるとグローバル化ばかりが魅力的というわけではないという気がしています。現在は慎重に議論すべきではないかという立場にいます。
　例えば、他文化に触れる機会を増やすということであれば、他県の例ですが、様々な国の方が学校を訪問し、どのような国なのか紹介する取組みをされている市町村があるので、参考としてもよいのではと思っています。

（委員）
　まずはその学校、学科でそれぞれ魅力的な教育活動を行っていくべきということは、その通りだと思っています。その中で、普通科と職業科の割合をしっかりと考えていく必要があると思います。近年、普通科の割合が低くなっているので、普通科の増加、あるいは職業科の減少を図ることで普職割合を正すことができるだろうと思っています。
　ただし、職業科については、例えば、動物を扱う農業科が県内では中央農業高校だけというような強みを生かしていくことは必要だと思います。ただ少なくするという観点からだけで考えるのではなく、総合学科や普通科コースの設置によって学科の内容を繋げるといったことも大事だと思います。また、ネーミングを変更する中で、可能であれば職業科の小学科を統合することもできるのではないかと思いました。
　国際バカロレアについては、関心はありますが、非常にハードルが高いと思っています。全国で公立高校は 11 校しかないということは、専門的な教員や施設設備の充実、多額の予算について非常に難しいのだろうと感じているので、本県の県立高校では設置が難しいのではないかと思っています。むしろグローバルコースのようなところで、英会話力を高めながら探究活動に力を入れるといった形で取り組む方が適しているのではないかと思っています。

（委員）
　再編に関する基準の議論において、私は現在の基準が適用されるのがよいと申し上げましたが、その中に「職業科単独校など特別な事情がある場合は対象としない」とあります。この職業科単独校を外す部分についてはあまり認めておらず、むしろ職業科単独校は設置しないとまでは言いませんが、普通科と職業科を混成したような学校やコース化したような学校として多く設置していくのがよいのではと思っています。

一つ目の理由としては、生徒数の減少を考えると学級数の減少は避けがたいことであるため、普通科と職業科で共通してできるものはできるだけ共通授業とすることが、人的資源の有効活用にもなるのではないかと思います。

二つ目としては、職業科が設置された当時とは状況が変わってきており、その学科に求められる意義が変化しています。その意義に合うようにつくっていく必要があると思います。

三つ目としては、先ほどから話題に挙がっている卒業後の進路についてです。家庭科や商業科において半数以上が進学し、一番就職率が高い工業科や農業科でも半数近くは進学しているのが現実です。そういった中で、その学校を単独校として存続させていく意味があるのだろうかという思いがあります。

全国募集については、実施している学校は定員割れをしている学校が多いという説明が最初にありました。全国募集に非常にマイナスなイメージが付けられると思います。全国募集を実施するのであれば、よほど尖ったものがあり、それをやりたいから来るという学校でないと難しいと思います。また、そこで尖ったことを行った先にどこに行けるのかということまで明確にしておかなければ、人が集まらないと思います。そうやってプラスのイメージにしなければ、全国募集は難しいのではないかという気がしました。

バカロレアについては、この制度を取り入れることで制約条件が多くなってしまい、自由度が減ってしまうのではと思っています。導入している学校でも、バカロレアコースの定員が 20 人程度にとどまっていることを考えると、やはり制限の方が多くなってしまい、あまり有効には動いていないのではと思います。国際化やグローバリゼーションということを考えるのであれば、高校教育の中で、英語教育や国際的な情勢を学ぶような社会科が一緒になって教科横断的な学習をすることが必要となり、そこから膨らんでいった上でバカロレアに至るという形がよいのでは思います。現状では、バカロレアの制度があまりにも足かせになると感じました。

（会長）

ありがとうございました。それでは本日の議事は終了とさせていただき、教育長に一言ご発言をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

（教育長）

委員の皆様には、大変お忙しい中、また悪天候の中、ご出席を賜りましてありがとうございました。本日は再編に関する規模や基準のこと、学科やコースについてのことを中心にたくさんのご意見をいただきありがとうございました。

再編に関する規模や基準については、教育の質が大事だというお立場から「ある程度の規模が必要である」というご発言がありました。一方で、「今後を考えればさらに幅広に考えるべきで、基準を拡大してもよいのではないか」というご意見も頂戴しました。また、「数だけではなく、ある程度の柔軟さも必要ではないか」というご意見もありました。この基準については、会長が仰ったように、次回、素案という形に整理をしてお示しできればと思っています。

学科やコースの見直しについては、「中学生や保護者の方が学びたい、学ばせたいと思う

ような学科を名称も含めてしっかり考えるべき」や「デザインといった視点や付加価値を生み出すような学びができることが大切」といったご指摘をいただきました。また、「情報系の学びができる学科やコースの設置について」や「どの学科やコースであってもそうした学びが必要」、「農業、水産業あたりが心配」といったご指摘もいただきました。進路がすぐに就職に直結していないという状況も確かにありますが、すぐにではなくても、高校時代に専門的に学んだことが将来に活きているということをしっかりと情報発信できるようにしていきたいと思っています。

少子化の中での学科やコースのあり方については、「職業科が単独で１学科だけある学校について、維持が難しいとなれば、例えば普通科のコースに入れ込むことや、総合学科にそうした中身を入れ込むという方法もあるのではないか」というご意見を頂戴しました。そういったことも踏まえて、次回については、普通科や商業科、家庭科などの他県の取り組み状況などをお示ししながら、中高一貫校などについてもご意見をいただければと思っています。

今後 10 年、10 数年経つと、子どもたちの数が３割減となりますが、そういう混沌とした時代の中でも課題発見や解決ができる人材づくりをどうするのかということについて、しっかりと検討していければと思っています。

ビジョンというお話もいただきました。ビジョンについてはあり方検討委員会の報告書の中にも示しているものはありますが、教育大綱や教育振興基本計画の中に教育全体として目指すものということで示されています。しかし、高校再編の中においても、どのように整理するかを考え、相談させていただきたいと思っています。今後とも引き続き、よろしくお願いします。

議事が終了したので、会長が終了を宣し、進行を事務局へ戻した。

６　閉会

15 時、司会が閉会を宣した。